

リーフ特別展示ブースでのEV充電体験など
ができる。日立電線は電気自動車用普通充

電ハーネスを展示する。

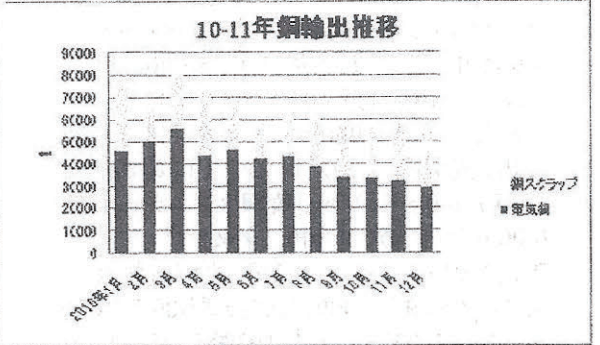
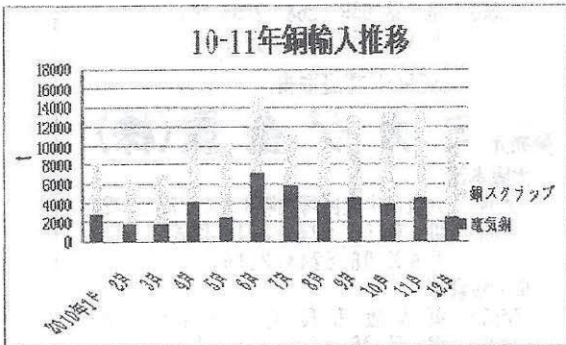
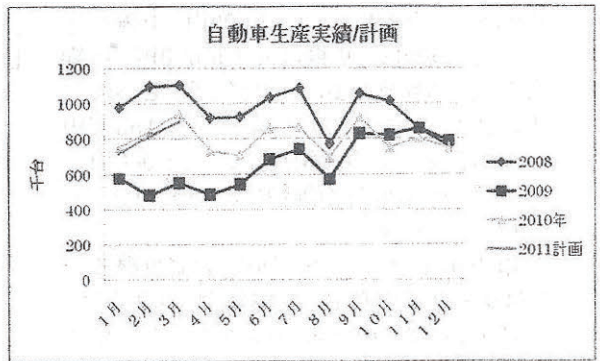
2月は中国の政策見極め思惑で伸び限定的

橋本健一郎氏(橋本金属)は、2月の銅とアルミの原料需要と価格の見通しについてレポートをまとめたので紹介する。

銅原料需要は、米中経済の好調や国内2底懸念回避をうけて世界需要増加を予測するも、現在、中国においては旧正月により商いストップ。欧米日については新年度の計画待ちから動けず、足元在庫の潤沢感や高値警戒感からメーカーは買い止めが続く。銅価格は鉱石不足による供給懸念や米国の金融緩和、旧正月明けによる中国買い気の復活を見越して投機資金が入りやすい状況にあり上昇が予測されるものの3月の全人代が第12次五カ年計画の初年度に当たるため景気対策や利上げを見極めたいとの思惑からLMEに関しては下値9,300ドル上値9,950ドル。銅建値は82-87万円程度と予測している。

なお、輸出入に関してはLMEが9,000ドルを超える上昇トレンドの中、中国バイヤーの高値警戒感が台頭し購入を抑制、そして輸出分が国内へ回帰したため輸出減・輸入減となった。

アルミ原料需給は1-3月の国内自動車生産計画が堅調なため、底堅く推移するとみられる。輸入塊は上海シグマで2月現在で2,440ドルと前月から上昇し調達難が予測される。10年の世界自動車販売が過去最高との報道などを受け、LMEアルミ価格は上昇を予測するが、銅とおなじく、2月中は中国の政策を見極めたいとの思惑から2,450-2,550ドル台を予測。アルミスクラップは1-3月期の自動車生産計画が堅調ではあるものの、新年度の自動車生産を見極めたいとの思惑から上値は削られ12月後半価格から据え置きから5円上げ予測。



故銅市況

銅建値1万円引き上げ、銅系5千円上昇 売り先難から買い手は値上げの腰重い

3日の故銅市況は、電気銅建値1万円引き上げを背景に銅系も5,000円高。同日入電の海外相場は、前日から続く高値トライの流れから上伸、LME銅相場は前日比34ドル上昇し9,968ドル、NY銅相場は上げ疲

れ小反落、前日比0.60セント下落し453.40ドルとなった。

為替動向は、米景気の回復期待から米長期金利が上昇、日米金利差拡大を意識した円売り・ドル買いが出てTTSは前日比